

令和6年度 東京の林業振興に向けた専門懇談会（第2回）

次 第

日 時 : 令和6年11月1日（金）
14時00分～16時00分
場 所 : 都庁第二本庁舎31階 特別会議室24

1 開会

2 局長挨拶

3 議事

議題 東京の林業振興に向けた意見交換

4 閉会

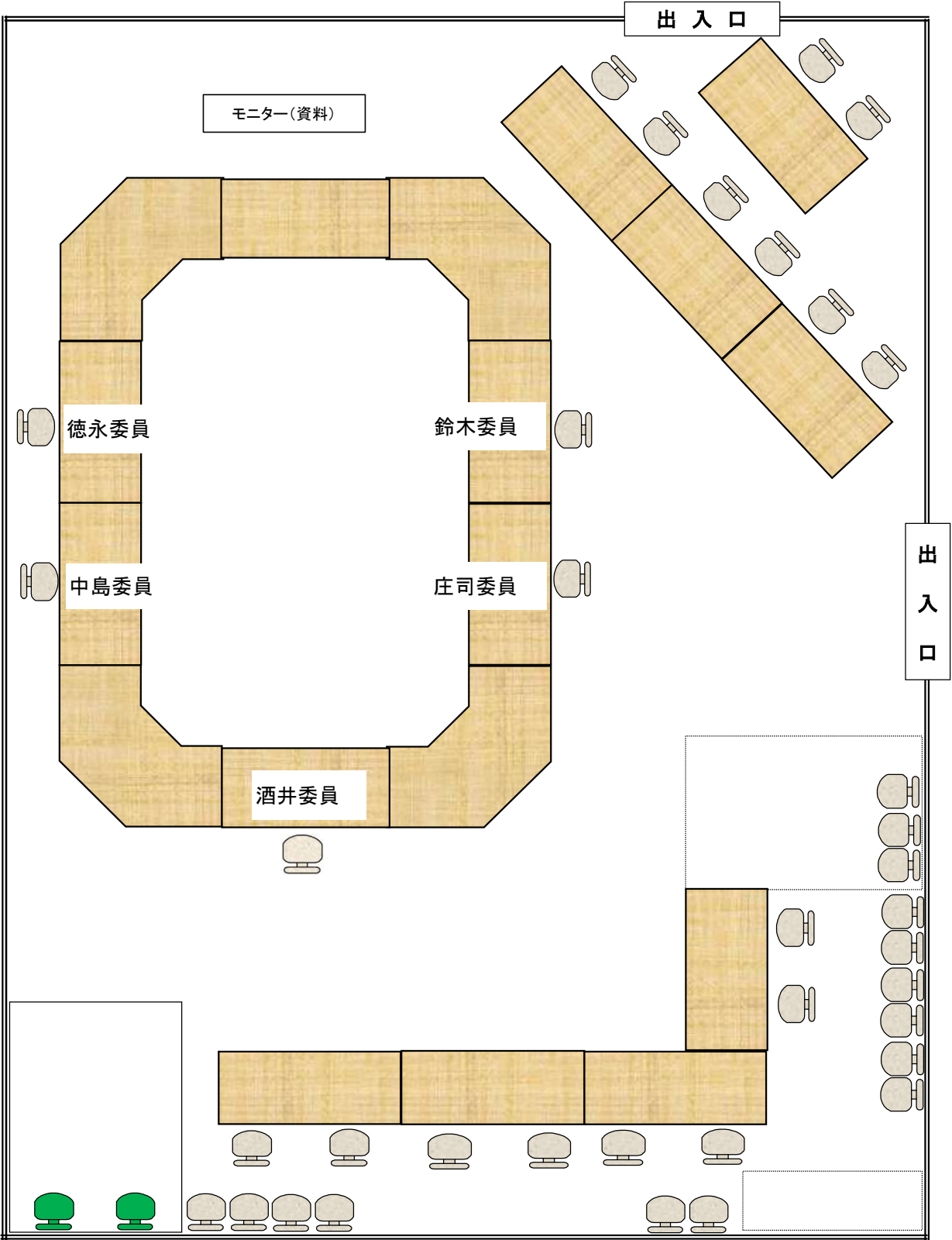
東京の林業振興に向けた専門懇談会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

所属等	氏 名
国立大学法人 東京大学 名誉教授	さ かい 酒井 ひ でお 秀夫
一般社団法人東京都木材団体連合会 会長	しょうじ 庄司 よし お 良雄
認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所 理事長	す ず き 鈴木 あ つ こ 敦子
国立大学法人 東京大学 特任准教授	と く な が 徳永 ゆ か 友花
中島林業 代表	なか じ ま 中島 だい す け 大輔

東京の林業振興に向けた専門懇談会(第2回) 座席表

令和6年11月1日(金) 14時00分～16時00分
第二本庁舎31階 特別議室24





東京の林業振興に向けた 専門懇談会 (第2回)

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性①

分野

発生源対策の加速化

委員からの意見

○多摩産材の安定供給

- ・ 林道や作業道の整備が、伐採量の増加につながる
- ・ 細かく点在している森林を集約して作業が進む仕組みを作ればより安定供給に結びつく

○労働力の確保

- ・ 作業リスクに見合った労働対価がないと続けられない
- ・ 真夏の下刈りなど過酷な労働環境の改善が、将来の担い手確保につながる

○森林の機能に対する意識醸成

- ・ CO2吸収や防災など森林の価値を認識することが重要

施策の方向性

- ・ 作業道の整備や民間の林業経営体の支援等により、伐採を促進
- ・ 森林の境界等の明確化を支援し、集約に向けた環境を整備
- ・ 森林整備に係る実態を踏まえ、作業リスクを考慮した支援を推進
- ・ 林業技術者の労働安全向上及び雇用改善を総合的に支援
- ・ 森林の持つ多様な役割が、付加価値として評価されるように理解を促進

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性②

分野

先進林業機械の導入拡大等による施業の省力化等

委員からの意見

○林業機械の効果的な活用

- 大型林業機械の導入には、その運搬や作業現場での移動を確保するためのインフラ整備が重要
- 山が急峻なため大型機械の導入が進んでいないのは今後の先進機械の導入効果がより大きいと言える
- 好立地でない現場は、小型機械でコツコツ出す作業も必要

施策の方向性

- 森林情報等を活用した効果的な林道の改良や高規格化を促進
- 効果的に作業道を整備し、間伐材の搬出等を促進
- 小型も含めた先進機械導入による生産性向上や、施業効率化を支援

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性③

分野

木材供給能力の強化

委員からの意見

○市場の機能強化

- 多摩木材センターはもっと広くてもいい。
- 市場には、ストックヤードとして需給バランスの調整を図る役割がある。

○製材業の維持

- 丸太の供給を増やすとともに製材業界の処理量を増やしていくことが重要
- 製材業が縮小してきており、担い手の維持・確保が必要

施策の方向性

- 将来的な供給増も踏まえて、多摩産材を取り扱う流通拠点の機能を強化する方向で検討
- 取引の促進に向けた多摩木材センターの取組を後押し
- 生産性の向上や品質の確保等、多摩産材を取り扱う製材所の課題解決を後押し

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性④

分野

D Xによるサプライチェーンの見える化

委員からの意見

○サプライチェーンの構築

- より多くの木を伐りだしてることが何より重要
- 需要から供給側の山元へアクションを起こすというデマンドチェーンの見方も重要

○サプライチェーンのデジタル化

- D Xを活用し、数年間の需要量を供給側で共有するなど情報の流通が重要

施策の方向性

- 作業道の整備や民間の林業経営体の支援等により、伐採を促進〔再掲〕
- 利用者が求める多摩産材の出材情報などを、供給者と共有する場（プラットフォーム）を整備
- 将来的には、供給と需要のマッチングや、伐採から原木市場、製材からエンドユーザーまでを一連の流通情報の共有を目指す

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性⑤

分野

多様な主体による森林整備支援の促進

委員からの意見

○新たな担い手発掘

- 森林への愛着を育てるには教育が必要
- 林業という職業の選択肢があることをPRすることが重要
- 森林に関わりたい人が、現場で活躍できる仕組みが重要

○森林空間の活用

- 企業研修など、森林空間を活用したニーズは高い
- 森から木が出て製材までのサプライチェーンを一連で体験することで、意識が変わる

施策の方向性

- 幼児から大学生まで切れ目なく木育活動を推進
- 林業の役割や重要性について普及啓発するとともに関係人口を拡大
- 森林整備に貢献したい企業等の資金を活用した取組を促進
- 森林をショーケース等として活用する取組を展開
- 林業の現場を案内し、その魅力を伝える自治体等を支援